

I 福祉学部こども学科の教育

1. 入学者受入れ、教育課程の編成・実施及び卒業認定・学位授与の方針

(1) 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

こども学科では、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門領域において、地域社会に根ざし、将来に渡って保育および幼児教育の領域における指導者として地域の発展に寄与しようとする気概を持つ人、現代社会に必要な知識と教養を身に付け、自らを高める努力をしようとする人を求めています。

こども学科においては、学修するための基本となる学力要素を、高等学校での学習を通して学科毎に形成された知識や技能に求めています。この知識や技能を証明するものとして、各学科に定める高等学校での評定平均を重視し、中でも特に、人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力を身につけていることを希望しています。

別に定める学科による各選考方法の基本は、高等学校における学習成果を前提に、こども学科において新たな知識を獲得するための希望者本人の意欲や論理的思考能力を確認することです。各選考に共通して設けられた面接では、学科への適性のほか、生徒会・部活動や地域ボランティアなど課外活動の実績も評価していきます。

(2) 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮しています。

こども学科の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目からなり、さらに各授業科目を必修科目、選択科目に分け、これを各年次に配当して編成しています。

教養教育科目では、学生・社会人としての現代的教養観、即ち表現力やコミュニケーション能力・情報リテラシー、および生活教養などを重視した科目で編成しています。

専門教育課程の編成は、幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする者のために教育職員免許法および同法施行規則に規定する科目を置き、保育士の資格を取得しようとする者のために児童福祉法および同法施行規則に規定する科目を置き、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を設置しています。また、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格双方の取得により認定こども園に勤務した場合は、保育教諭となることを可能としています。

教養教育・専門教育科目それぞれに、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などに対応する教育目標が設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して学科教育、人材育成の目的に到達できるよう各年次に配当して編成しています。

(3) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

こども学科においては、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う専門職の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、その他、学則に示された所定の要件を満たすことを基本としています。

単位の修得にあたっては、各科目にそれぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して修学したことを学科教育、人材育成の目的に適用者とし、かつ、学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有しているところこども学科会議で判定された学生について、学長が教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（こども学）」の学位を授与し

ます。

2. 学生の努力目標

福祉学部こども学科は、教育・福祉両面にわたる発達支援、子育て支援を担う人材育成を目指し、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を養成することを目的とし将来的に幼稚園教諭、保育士、さらには保育教諭としての活躍を期待しています。

幼児教育・保育に関わる知識は、次世代を育む社会の一員として皆さんに等しく求められていくもので、免許・資格の取得そのものを卒業時の必須要件とはしていませんが、学生のみなさんには本学科における学びの証として、卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得できるよう努力してください。

3. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために次の点が求められますので、よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の学是「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるため、日ごろから新聞などに親しみましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりでなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でもゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探究心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。

※「保育者」

保育者（ほいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士、幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

II 教育課程と履修の方法

1. 教育課程（カリキュラム）

(1) 基本的な考え方

開講される授業は「教育課程表」（P118～P121）のとおりです。

教育課程（カリキュラム）は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。そして科目ごとに、授業の方法（講義・演習・実習）、履修できる学年、科目の種類（必修・

選択)、単位数が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修にはいくつかの約束事がありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目(授業)を受講して、学期末の試験(筆記試験・レポート試験等)に合格すると「単位」が認定されます。「単位」については、下記に取りあげていますが、卒業や資格取得への目安になる「数」を示します。

(2) 履修方法

4年間で学ぶ全ての授業科目は、教育課程にまとめられています。この中から卒業、および幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する科目を決めていきます。

(3) 科目の種類

科目には「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

卒業までに必ず取得しなければならないのが「必修科目」であり、どちらかを選択して必ず取得しなければならないのが「選択必修科目」です。それ以外の科目が「選択科目」となっています。

「必修科目」および「選択必修科目」は皆さんが、取得する必要がある科目であり、この科目が卒業時まで一つでも取得できていなければ、卒業することができません。

(4) 授業の開講期

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭一種免許状、保育士の指定科目を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

(5) 単位制

学修期間は年間を前期(4月1日～9月30日)と後期(10月1日～3月31日)の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年(通年)30週で完結する「通年科目」があります。

- ① 単位とは学修時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。
- ② 単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続(正味90分)を「時限」としていますので、各時限を2時間として単位の計算をします。
- 授業時間以外に必要な学修時間の計算方法は、講義2単位の場合90時間の学修量が必要です。1回2時間(90分)で15回の授業では、2時間×15回=30時間(90

時間の1/3)の学修になります。90-30=60時間は授業外の学修時間(予習・復習)となり、この場合60時間分の予習・復習等の学修が必要となります。

(6) 卒業に必要な単位数

「単位」は決められただけの数を取得していないと卒業できません。こども学科の「卒業に必要な単位数」は次のとおりです。

最低必要単位数				
科目別	必修	選択必修	選択	卒業
教養教育科目	15単位	6単位	7単位	28単位以上
専門教育科目	47単位	2単位	47単位	96単位以上
合計				124単位以上

(7) 科目ごとの授業期間

授業期間は、「通年科目」と「半期科目」があり、科目ごとに定められています。

「通年科目」とは、1年間を通じて授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。ただし、後期末試験を行う場合は31回となります。

「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。ただし、期末試験を行う場合は16回となります。

2. 履修の方法

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格・免許状取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配付される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修届を提出しなければなりません。

履修届の記入方法、提出期日等は、オリエンテーションで教務課から説明がありますので、しっかりと聞いてください。提出期限に遅れると履修することができません。

また、教員や教務課員が早く出すよう一人ひとりに指示をしたりはしません。全て自分の責任で届出を行い、履修確認を完了させるようにしてください。

3. 履修の制限

履修には制限のある場合があります。

(1) 履修科目の制限 履修規程第26条

実習に出るには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとっておくことが大切です。1、2年の必修科目を落としてしまうと、3、4年次に実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

(2) 履修科目登録の上限 学則第34条

取得しようとする1年間の単位数は、資格・免許状取得に必要な単位数や一人ひとりの能力によっても異なってきます。学生が各年次にわたり授業科目を適切に履修するため、1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位としています。

4. 免許状・資格の取得

こども学科において指定された単位を取得すると、次の免許状・資格が取得できます。詳しくは、免許状・資格取得の方法(P106～P111)をよく読んでください。

こども学科

- (1) 幼稚園教諭一種免許状
- (2) 保育士資格
- (3) 社会福祉主事任用資格

*幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得することにより、保育教諭を名乗ることができます

Ⅲ 科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数えます。そして、授業時間は1回90分で設定されています。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	8：50～ 10：20	10：30～ 12：00	12：50～ 14：20	14：30～ 16：00	16：10～ 17：40

2. 成績評価と単位認定

各科目の成績評価は以下のとおりです。その他に本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとに、本学独自GPA（Grade Point Average：成績評定平均点）を算出する方法を取っています。

- (1) 本学独自のGPA（以下単にGPAと表記）成績評価方法とは、
 - ① 授業科目はシラバスにより学修目標、成績評価基準を明示したうえ100点満点で成績評定し、単位取得科目（60点以上）の評価点（素点）に単位数を乗じた点数をその科目のグレード・ポイントとします。
 - ② 入学以来の取得単位科目のグレード・ポイントを累計し、累計した総取得単位数の1単位あたりの平均点を算出します。これをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼びます。すなわち各科目の評価点に単位数をかけたものの総点を総取得単位数で割ったものです。
 - ③ GPAは、事項に詳しく示しますが、進級・卒業・実習科目の履修に利用されます。それ以外にも、各学年の学期末に算出されたGPAが70点に満たない学生については、個別に学科長並びに学生主任、クラスアドバイザー等が学修指導、生活指導を行い、学力の向上の助言を行います。
 - ④ C評価（60点～69点）の科目については再履修が認められ、評価点を向上させる機会が与えられます。しかし、その再履修の結果、点数が下がる、もしくは不合格になった場合でも、再履修時の評価が採用されますので注意して下さい。
- (2) 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。成績は6段階となっており、評価点ごとのグレードは次のとおりとなっています。

A ⁺ （100～90点）	A（89～80点）	B（79～70点）
C（69～60点）	D（59～50点）	F（50点未満）

※GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目については、「再履修願」により再履修をすることができます。

- (3) 単位の認定は、必要な課程として定められた時数について、学外実習および実習指導科目等、別に定める場合を除き、3分の2以上出席し、本学の行う試験その他による成績審査に合格したものに対して行います。
学外実習および実習指導科目等別に定める科目の必要な出席時数は次のとおりです。

1. 学外実習科目の事前・事後指導については5分の4以上。
2. 学外実習については所定の全日数。ただし、実習中、病気、急引等やむを得ない事情により欠席した場合で、実習期間の延長が可能な場合は当該欠席日数分を延長して補充することができます。
3. 海外実習または演習を行う場合は、当該実習または演習における所定の全プログラム。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く。）に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。補足的な措置として、以下のような例があげられます。

- 授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語
 - ・注意1回につき1点減点
※同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置が取られます。
- 遅刻・早退・欠席
 - ・遅刻・早退1回につき1点減点
 - ・欠席1回につき3点減点
※遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書（書式自由）で提出してください。
 - ①学内外における本学所定の実習を実施する場合（認定こども園基本実習、保育実習、幼稚園教育実習等）
 - ②学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
 - ③裁判員制度による裁判員に選任された場合
 - ④就職試験（面接を含む）を受験する場合
 - ⑤公共交通機関の遅延や運休による場合
 - ⑥悪天候または事故等により、やむを得ない場合
 - ⑦親族の不幸等やむを得ない場合

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条

には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー、帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行動
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机の上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

3. 試験【履修規程】【試験規程】

学修成績の判定の方法は中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等、担当の教員の定めた方法で行われます。試験には、他に追試験、再試験があります。

試験に関わる情報は、教務課の掲示板に掲示されます。学生に配付されたりすることはありませんので注意してください。

(1) 試験の種類

- ① 定期試験（中間試験、期末試験等）
授業期間の途中や、前期末・後期末に実施される試験です。
- ② 追試験
履修規程第11条による事由により定期試験に出席できなかった場合は、速やかに教務課に連絡し、その事由を証明する書類を添付して、追試験願を事前もしくは事後1週間以内に提出すれば追試験を受けることができます。
ただし、本人の不注意だった場合には、80点満点とし1科目につき追試験料5千円がかかります。（年度内3科目以内）
- ③ 再試験【履修規程第12条】参照
卒業学年に在籍し、履修規程第13条に定める再履修を行う場合、卒業年度内の再履修が困難で、卒業に必須の科目が2科目以内である場合は、再試験願を教務課に提出して、試験等の再試験を受けることができます。再試験料は1科目につき5千円です。

(2) 試験の方法【試験規程】参照

- ① 筆記試験
筆記試験は通常90分です。
試験開始から20分以上の遅刻は認められません。20分経過すると退出が認められません。
科目によって、教科書やノートを持ち込んで良いという指示がある場合もあります。試験日程とともに持ち込みの可否も掲示されていますので、よく確認してください。
- ② レポート
レポート用紙や形式は、担当教員からの指示に従い、指定期限内に指示された場所に提出します。
- ③ その他の方法
調査、作品、実技、口頭試問等、試験方法はさまざまです。

4. 科目「情報機器操作」

科目名	レベル	履修年次	単位数
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	2単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル	1・2年	2単位
情報機器操作ⅢA	—	3・4年	2単位
情報機器操作ⅢB	—	3・4年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。2単位以上を必修としますが、「情報機器操作Ⅰ（初級レベル）」の履修者は、「情報機器操作Ⅱ（中級レベル）」まで計4単位以上を必修とします。

5. 科目「英会話」

科目名	レベル	履修年次	単位数
英会話Ⅰ	ベーシックレベル	1年	2単位
英会話Ⅱ	アドバンスレベル	1・2年	2単位
英書リーディング	—	2年	2単位

入学時の能力検定により履修レベルを決定します。
英語教育の履修については、以下のとおりです。

- 1年次に「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を指定された者
「英会話Ⅰ（ベーシックレベル）」を履修して2単位を取得した後、2年次で「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。
- 1年次に「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」を指定された者
「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」の2単位を取得した後、2年次で「英書リーディング」（2単位）も履修して合計4単位を取得してください。

6. ゼミナール

「ゼミナール」は、教育・保育に関する課題や問題点を自ら見出し、解決する方法を研究する力の涵養を目的に、専門教育科目における卒業必修科目（4単位）として設定されています。履修学年は3年次、4年次と2カ年の継続履修で、2学年が同じ空間で学修に励むことも学科の特徴的な科目となっています。

「ゼミナール」の単位は各ゼミナールにおける研究成果として、研究論文の提出（研究過程上に制作物が伴う場合は制作物を含みます）が必須の条件となります。

各ゼミナールの履修定員は当該学年学生数の20%～25%とし、事前希望調査により極端な偏りを防ぐよう計画されています。こども学科の学生のみなさんは1年次より教育・保育に関する問題意識を持ち、3年次履修時までには自分自身の研究課題を絞り込んでいきましょう

また、4年次には各ゼミナールの研究領域に関わらず「研究発表会」にて研究成果の発表をおこなっていきます。1、2年生にとっては先輩方の研究結果を聞くことにより、より具体的な研究課題を見つける機会となるでしょう。

Ⅳ 免許状・資格取得の方法

1. 幼稚園教諭一種免許状

(1) 幼稚園教諭一種免許状とは

幼稚園教諭一種免許状は、教育職員免許法、教育職員免許法施行規則に基づく国家資格です。この免許状は、次の(2)に定められた科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指定科目

教育職員免許法に基づく資格の取得に必要な科目を履修することによって、幼稚園教諭一種免許状を取得することができます。本学では、「幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目として配当しています。

必修科目については、「教養教育科目」5科目8単位、「専門教育科目」の教科に関する科目5科目10単位、教職に関する科目18科目40単位、教科又は教職に関する科目1科目1単位の単位を必ず履修しなければなりません。

以上、幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、59単位取得することが必要となります。

幼稚園教諭一種免許状資格取得に必要な科目一覧

1. 教養教育科目

(1) 教養教育科目

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	履修年次	単位数	備考
日本国憲法	日本国憲法	2	2	
体育	体育講義	1	1	
	体育実技Ⅰ	1	1	
外国語コミュニケーション	英会話Ⅰ（ベーシックレベル）	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修 ただし、レベルⅠの履修者はⅡまで必修
	英会話Ⅱ（アドバンスレベル）	1・2	2	
情報機器の操作	情報機器操作Ⅰ（初級レベル）	1	2	レベルに応じ、いずれか2単位必修 ただし、レベルⅠの履修者はⅡまで必修
	情報機器操作Ⅱ（中級レベル）	1・2	2	
合計			12	

※教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の指定科目の他に、「本学の教育」、「国語表現」、「会話演習」、「生活教養」、「英書リーディング」（「英会話Ⅱ（アドバンスレベル）」を履修した者）の5科目を必修科目としています。

2. 専門教育科目

(1) 教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	履修年次	単位数
国語	国語	3	2
算数	算数	3	2
生活	—	—	—
音楽	音楽	1	2
図画工作	図画工作	1	2
体育	体育	2	2
合計			10

(2) 教職に関する科目

第一欄	免許施行規則に定める科目区分	授業科目	履修年次	単位数	
第二欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	保育者論	1	2
		教員の職務内容			
		進路選択に資する各種の機会の提供等			
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	1
			発達心理学	1	4
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育行政	3	2	
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	保育・教育課程論	1	2
		保育内容の指導法	保育内容総論	1	2
			保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
			保育内容指導法 表現Ⅰ	2	2
			保育内容指導法 表現Ⅱ	3	2
		教育の方法及び技術	教育方法及び技術	3	2
		第五欄	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法
教育相談の理論及び方法	教育相談			3	2
第五欄	教育実習	幼稚園教育実習 *事前事後指導1単位を含む	3・4	5	
第六欄	教職実践演習	保育・幼稚園教職実践演習	4	2	
合計				40	

(3) 教科又は教職に関する科目

免許施行規則に定める科目区分	授業科目	履修年次	単位数
教科又は教職に関する科目	認定こども園基本実習	2	1

(4) その他

こども学科では、教育職員免許法に基づく幼稚園教諭一種免許状の指定科目の他に、本学独自の科目として「ゼミナール」を必修科目としています。

2. 保育士資格

(1) 保育士とは

保育士は、「児童福祉法」に基づく国家資格です。その仕事の内容は、児童福祉施設（保育所、施設など）で児童の健全な育成をめざし保育にあたるとともに、ソーシャルワークの視点からカウンセリング能力や対話能力を身につけ、児童の保護者に対しても子育ての支援を行うことです。この保育士資格の取得は、次の(2)に定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して卒業することが条件です。

(2) 指定科目

児童福祉法に基づく資格の取得に必要な指定科目を履修することによって、保育士資格を取得することができます。本学では、「保育士資格取得に必要な科目一覧」のとおり、必修科目、選択必修科目を配当しています。

必修科目については、「教養教育科目」9科目19単位以上、「専門教育科目」30科目61単位を必ず履修しなければなりません。

選択必修科目については、「専門教育科目」15科目27単位の中から、いずれか9単位以上履修しなければなりません。

以上、保育士資格を取得するためには、必修および選択必修科目合わせて、89単位以上取得することが必要となります。

保育士資格取得に必要な科目一覧

1. 必修科目

(1) 教養教育科目

教科目	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
外国語・体育以外の科目	6以上	本学の教育	1	2	
		国語表現	1	4	
		会話演習	2	1	
		情報機器操作Ⅰ(初級レベル)	1	2	2単位以上必修 Ⅰの履修者はⅡまで 計4単位必修
		情報機器操作Ⅱ(中級レベル)	1・2	2	
		生活教養	1	4	
		国際理解論	1	2	
外国語	2以上	英会話Ⅰ(ベーシックレベル)	1	2	2単位以上必修 Ⅰの履修者はⅡまで 計4単位必修
		英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	1・2	2	

教科目	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
体育	1	体育講義	1	1	
	1	体育実技Ⅰ	1	1	
合計	10以上			23	

※児童福祉法に基づく、保育士資格の必修科目の他に、「英書リーディング」(1年次英会話Ⅱを履修した者)を必修科目としています。

(2) 専門教育科目

系列	教科目	最低修得単位数	授業科目	履修年次	単位数
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	2	保育原理	1	2
	教育原理	2	教育原理	2	2
	児童家庭福祉	2	児童家庭福祉	1	2
	社会福祉	2	社会福祉	1	2
	相談援助	1	相談援助	2	1
	社会的養護	2	社会的養護	1	2
	保育者論	2	保育者論	1	2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	2	発達心理学	1	4
	保育の心理学Ⅱ	1	教育心理学	2	1
保育の対象の理解に関する科目	子どもの保健Ⅰ	4	子どもの保健Ⅰ	1	4
	子どもの保健Ⅱ	1	子どもの保健Ⅱ	2	1
	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	2
	家庭支援論	2	家庭支援論	2	2
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	2	保育・教育課程論	1	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	1	2
	保育内容演習	5	保育内容指導法 健康	3	2
			保育内容指導法 人間関係	3	2
			保育内容指導法 環境	2	2
			保育内容指導法 言葉	2	2
			保育内容指導法 表現Ⅰ	2	2
	乳児保育	2	乳児保育	2	2
	障害児保育	2	障害児保育	3	2
	社会的養護内容	1	社会的養護内容	2	1
保育相談支援	1	保育相談支援	2	1	
保育の表現技術	4	音楽	1	2	
		図画工作	1	2	
		体育	2	2	
保育実習	保育実習指導Ⅰ	2	保育実習指導Ⅰ	2・3	2
	保育実習Ⅰ	4	保育実習Ⅰ	3	4
総合演習	2	保育実践演習	4	2	
合計	51	合計	61		

2. 選択必修科目
(1) 専門教育科目

系列	単位数	授業科目	履修年次	単位数	備考
保育の本質・目的に関する科目	15以上	地域福祉論	4	2	この中から6単位以上必修
		発達障害	4	2	
保育の対象の理解に関する科目		子育て支援政策	4	2	
		臨床心理学	3	2	
保育の内容・方法に関する科目		カウンセリング概論	3	2	
		カウンセリング演習	3	1	
保育の表現技術		幼児理解の理論と方法	3	2	
		ピアノ演習(初級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(中級レベル)	1	2	
		ピアノ演習(上級レベル)	1	2	
保育実習	器楽演習	1	2		
	1 保育実習指導Ⅱ	3・4	1	Ⅱ、Ⅲいずれか3単位選択必修	
	2 保育実習Ⅱ	4	2		
	1 保育実習指導Ⅲ	3・4	1		
2 保育実習Ⅲ	4	2			
合計	18以上	合計		27	

※「ピアノ演習」または「器楽演習」のうちいずれか2単位を必ず履修しなければなりません。さらに、実習科目から「保育実習Ⅱ」・「保育実習指導Ⅱ」、または「保育実習Ⅲ」・「保育実習指導Ⅲ」のいずれか3単位は必ず履修しなければなりません。

(2) その他

こども学科では、児童福祉法に基づく保育士資格の必修科目の他に、「認定こども園基本実習」と「ゼミナール」を必修科目としています。

3. 社会福祉主事任用資格

(1) 社会福祉主事とは

「社会福祉主事」とは社会福祉法第19条に認定されている資格です。社会福祉主事は福祉事務所で働く時に必要な資格であり、福祉事務所で「現業員」という仕事に就いたときに「社会福祉主事」と名乗れるというもので、このような資格を「任用資格」と呼んでいます。

つまり卒業して地方公務員試験を受けて地方自治体職員に採用され、福祉事務所に配属になったときに初めて名乗れる資格といえます。

しかし一般的に社会福祉の領域では、「社会福祉に関する業務を行うのに、最低限必要な資格」と位置づけられています。卒業後に社会福祉施設などで働く者にとって、最低限必要な資格といえるでしょう。

(2) 指定科目

社会福祉法では指定科目を34科目規定しており、「指定科目を3科目以上履修した者」は、その単位が認定されれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」を有することになります。

こども学科の指定科目は、社会福祉主事任用資格取得指定科目に該当する本学設置科目一覧のとおりです。

社会福祉主事任用資格取得指定科目に該当する本学設置科目一覧
(読替科目)

厚生労働大臣の指定する科目	本学における読替科目
社会福祉概論	社会福祉
社会福祉援助技術論	相談援助
児童福祉論	児童家庭福祉
保育理論	保育原理
地域福祉論	地域福祉論
教育学	教育原理
うち3科目	6科目のうち3科目以上

※「社会福祉主事任用資格」は大学で付与する資格ではありません。資格を有することについては、本学の卒業証明書と成績証明書の2点をもって証明できます。

V 実習 (認定こども園基本実習・幼稚園教育実習・保育実習・学童保育実習)

(1) 認定こども園基本実習

認定こども園基本実習は、幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得のための必修科目です。

福島学院大学認定こども園で1週間の基本実習を行います。認定こども園基本実習をまとめると表1のようになります。

表1 「認定こども園基本実習」実施表

実習施設	学年	実施時期	日数	単位数	備考
福島学院大学 認定こども園 (幼保連携型)	2	9月又は 2月	1週間	1単位	幼稚園教諭一種免許状・ 保育士資格取得希望者必修

<認定こども園基本実習の指導内容>

- 保育者としての愛情と使命感を深め、自己の保育者としての能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え(保育者の心構え) ○ 保育者の望ましい資質
 - 幼児教育の考え方 ○ 実習の反省と適性への自己評価
- 実習日誌、指導計画作成の仕方を学び、日案や部分的な指導案を理解する。
 - 実習日誌の書き方 ○ 週案と日案の関係、目標の立て方
 - 環境構成の仕方
- 観察実習・技術演習等を通じて、指導法の基礎を体験的に理解する。
 - 幼児への興味を引き出す保育方法 ○ 自由遊びにおける指導法
 - 音楽を通しての幼児とのかかわり方 ○ 教材研究と教材教具の準備の仕方
 - 一人ひとりの子どもの発達の特性に応じたかかわり方
 - 基本的生活習慣の指導
- 実際に保育者と幼児のかかわりを通して幼児理解を深める。
 - 幼児の行動の観察からの読み取り ○ 幼児とのかかわり方

5. 幼児教育の実際についての体験的・総合的理解を与え、適切な勤務態度を身につける。
- 施設・設備とその活用
 - 園の1日・1年の生活
 - 保育者の職務内容
 - 勤務の基本マナー（勤務の在り方、服装と態度、清掃と整理整頓の仕方等）

(2) 幼稚園教育実習

幼稚園教育実習は、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。履修方法は学外実習と実習に関する事前・事後指導（1単位）があり、単位数は5単位です。

学外実習は4年次に幼稚園での本実習が4週間（4単位）です。教育実習をまとめると、表2のようになります。

表2 「幼稚園教育実習」実施表

実習施設	学年	実施時期	日数	単位数	備考
幼稚園	4	9月	4週間	5単位	幼稚園教諭一種免許状取得希望者必修

実習に関する事前・事後指導は、クラスセミナーでの実習指導や実習授業、実習反省会等で行います。

幼稚園教育実習の目標

1. 幼稚園についてその実態を知り理解を深める。
2. 幼稚園教諭の職務や役割を体験的に理解し、責任感を喚起する。
3. 指導計画の役割について実際の保育に即して理解する。
4. 指導・援助について実践的に学ぶと共に、経験者の幼児教育に対する姿勢や考え方に触れる。
5. 幼稚園教諭としての適切な勤務態度を身につける。
6. 子どもの発達を現実に即して理解すると共に、幼稚園教諭が担う役割について考える。
7. 幼稚園教諭に求められる適性や態度、能力等について実感を持って考え、自己を見直す。

<幼稚園教育実習の指導内容>

1. 幼稚園教諭としての愛情と使命感を深め、自己の能力や適性について自覚する。
 - 実習の心構え（幼稚園教諭の心構え）
 - 幼児教育の考え方
 - 幼稚園教諭の望ましい資質
 - 実習の反省と適性への自己評価
2. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、指導計画の作成と実施・評価等の関連の理解と実践のための能力を高める。
 - 日案や部分的な指導案の作成の仕方
 - 実施結果の反省・評価の仕方
 - 反省・評価に基づく新たな計画のたて方
3. 参加、部分実習、全日実習等を中心として、様々な指導方法を体験し、理解する。
 - 指導案として計画された経験や活動の望ましい指導方法
 - 幼児の動きに即応した弾力的な指導法
 - 環境構成の仕方
 - 生活指導の技術
4. 幼児理解の方法について体験し、実際の指導の上で活用する能力を高める。
 - 観察と記録のとり方
 - 幼児の行動記録の集積とその活用
 - 問題行動への対応の仕方

- 幼児の発達を考慮した指導計画や指導方法への生かし方
5. 幼児教育の実際についての体験的・総合的理解と、適切な勤務態度を身につける。
- 幼稚園の施設・設備とその活用
 - 幼稚園の教育計画
 - 幼稚園教諭の職務内容
 - 保護者や地域との関連と接し方
 - 勤務のマナー（勤務の在り方、服装と態度、職場内の人間関係等）

表3 『幼稚園教育実習』での標準的な指導計画

実習内容	
事前	○実習園を訪問し、事前打ち合わせを十分に行う。 (園舎内外の見学、実習期間中の行事等について、出勤・退勤時間の確認、服装、その他勤務上の注意点、部分実習や全日実習で準備するもの等)
第1週	○指導講話（園長や主任、実習担当者の講義） (オリエンテーション：設立の沿革、教育目標、特色ある教育内容、経営方針、年齢・園児数・クラス編成、職員組織・構成、教育実習の心得等) ○見学（幼稚園の環境、園舎、その他の施設・設備の状況等） ○観察（クラスの幼児の活動、一日の生活の流れ、担任の保育の仕方等） ○参加（保育室の環境構成、援助の補助、教材・教具の準備、清掃、保育室の整理・整頓等） ○長期間の指導計画の説明（実例に基づいて指導）
第2週	○観察・参加（第1週に同じ。次第に参加は多くなる） ○部分実習の指導案の作成（作成の仕方の指導） ○部分実習（できる限り2回以上） ○部分実習についての反省会（反省会や研究会の行い方の指導） ○園長講話（幼児教育や幼稚園教諭の在り方に関連する講義……体験談を中心に）
第3週	○教育にティーチングアシスタントとして参加
第4週	○観察・参加（第2、3週に同じ） ○日案の作成（その園の形式による作成の仕方の指導） ○全日実習（できる限り2日以上） ○全日実習についての反省会（保育の仕方の改善についての指導） ○園長、主任、担任との話し合い（実習のまとめと評価についての指導）
事後	○実習のまとめをする。 ○実習園へ礼状を出す。（実習終了後、1週間以内が望ましい） ○実習園から評価票が届く。（実習終了後、2週間程度）

(3) 保育実習

【保育実習Ⅰ】

保育実習Ⅰは保育士資格取得のための必修科目です。保育実習 指導Ⅰの2単位の他、保育所における実習2単位と、その他表4（A）に掲げる保育所以外の施設における実習2単位を履修します。

実習実施の細目は下記のとおりです。

表4 「保育実習Ⅰ」実施基準（その1）

実習種別	履修方法		実習施設
	単位数	おおむねの実習日数	
保育実習Ⅰ	4単位	20日	(A)

※実習施設の種別は、次のとおりです。

(A) 保育所、幼保連携型認定こども園又は児童福祉法第6条の3第10項の小規模保育事業（ただし、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第61号）第3章第2節に規定する小規模保育事業A型及び同基準同章第3節に規定する小規模保育B型に限る）若しくは同条第12項の授業所内保育事業であって同法第34条の15第1項の事業及び同法同条第2項の認可を受けたもの（以下「小規模保育A・B型及び事業所内保育事業」という。）及び乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター（児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る）、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所（生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る）、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のみぞの園

以上の実施基準を別表にまとめると次のようになります。

表5 「保育実習Ⅰ」実施基準（その2）

実習種別	保育実習Ⅰ		
	保育士資格取得希望者は必修		
実習施設 実習日数 単位数	保育所	おおむね10日間	2単位
	保育所を除く表4 (A)欄に掲げる施設	おおむね10日間	2単位

表4、表5に示されているのが現行の実施基準です。本学ではこの基準を踏まえて、より実習の効果をあげることを目的として、独自の方法で実施しています。

保育実習Ⅰの履修方法は、学外実習と学内での保育実習指導Ⅰがあります。

2年次には、実習の基礎を学ぶために福島学院大学認定こども園（幼保連携型）での基本実習を1週間実施します。3年次には保育所と児童福祉施設実習での実習をおおむね10日間ずつ行います。実習の実施時期は、表6の通りです。

学内での実習に関する事前・事後指導は、教育実習同様、1年次から3年次までの3年間、クラスセミナーでの実習指導や実習の授業、実習反省会等に出席しなければなりません。

表6 「保育実習Ⅰ」実施時期

実習施設	学年	実施時期	実習日数	備考
保育所	3	7月～8月	おおむね10日間	保育所実習
児童福祉施設（保育所を除く）	3	10月～11月	おおむね10日間	児童福祉施設実習

保育実習Ⅰの目標（保育所・児童福祉施設）

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

【保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ】

保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲは、保育士資格取得の選択必修科目です。したがって、資格を取得するためには、保育実習のほかどちらかを選択し、履修しなければなりません。詳細は表7の通りです。

なお、保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（各1単位）もどちらかを履修します。授業内容は授業計画をご覧ください。

表7 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」実施基準・時期

実習種別	実習施設	単位数	学年	実習日数	実習時期	備考
保育実習Ⅱ	保育所	2単位	4	おおむね10日間	7月～8月	どちらか一科目を履修する
保育実習Ⅲ	(B)	2単位	4	おおむね10日間	7月～8月	

(B) 児童厚生施設又は児童発達支援センター、その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所は除く）

保育実習Ⅱの目標（保育所）

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

保育実習Ⅲの目標（児童福祉施設）

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 保育士としての自己の課題を明確化する。

(4) 学童保育実習

学童保育実習は、本学が指定する学童クラブにおいて実習を行います。学童保育実習をまとめると、表8の通りです。

なお、事前指導は学童保育の授業で、事後指導は実習終了後の実習反省会で行います。

表8 「学童保育実習」実施時期

実習施設	学年	実施時期	日数	単位数
学童保育実習	4	6月～翌年1月 (合計80時間)	学童保育が1日中行われる夏季集中の場合は2週間	1
			学生授業期間中の放課後の場合は、連日又は週1～2回(1日4時間)及び土曜日(8時間)で80時間分の日時数	

学童保育実習の目標

学童クラブの役割や機能を具体的に理解することが目標であり、子どもとのかかわりを通して学童期の子どもの特徴を理解します。

また、学童保育の授業の内容を踏まえ、子どもの保育と教育および保護者への支援について総合的に学び、学習指導員の業務内容や職業倫理について理解します。

学童保育の計画、実践、記録、自己評価などについて実際に取り組み自己の課題を明確にします。

(5) 児童福祉施設見学実習

一年次後期以降各授業への動機づけによる幼児教育・保育に関わる専門学科での学びの意識高揚を目的とした教育行事として児童福祉施設見学実習を実施します。

表9 「児童福祉施設見学実習」実施時期

見学実習先	学年	実施時期	実習日数
児童福祉施設および保育所	1	9月	1日

(6) 実習反省会について

本科では教育実習・保育実習における事前・事後指導の一環として、学外における全実習終了後に「実習反省会」を開催します。

この実習反省会は、教育実習・保育実習の授業回数に含められ、単位認定に関わるものなので、必ず出席しなければなりません。

<実習反省会の目的>

実習反省会の目的は、1・2年次は実習事前学習の一環として実施するもので、実習内容の理解と実習に対する意欲高揚を図ります。

3・4年次は実習事後学習の一環として、実習の振り返りと保育者としての自覚深化を目指します。

(7) 実習の履修制限・解除

教育実習・保育実習などについては、実習の履修制限があります。

※詳細については履修規程第15条(履修科目の制限)をご覧ください。

なお、履修制限にかかっても、本人の努力次第で解除される場合もありますので、同規程の第16条(履修制限の解除)も併せてご覧ください。

Ⅵ その他

1. クラスセミナー

こども学科では、各学年ともにクラスセミナーを実施しています。その内容は、就職に関する説明会や相談会、学力向上を目指す講座、さらに、現代社会に対応していくための生活指導など、学生の皆さんにとって直接的に関わる重要な内容が数多く計画されております。

また、教員と学生一人ひとりとの直接的な話を重視するという観点から、クラスアドバイザー(クラス担当教員)による個人面談を年2回実施し、学習や生活相談などを受ける機会を設けています。

2. 研修旅行

保育者を志す学生の皆さんが社会参加に必要な知識を、体験を通して修得するための機会として設定されたのが研修旅行です。これは、教育課程による通常の授業を重視しながら、しかもこれと有機的関連をもつよう厳選したものを計画しています。

具体的には、保育施設や文化施設などの見学を実施しています。学生の皆さんは、この機会を積極的に活用し社会的見聞を広めるようにしましょう。

3. 学生支援プログラム

こども学科では、授業とは別に、次のような学生支援プログラムを計画し、希望者を対象に実施しています。詳細については、クラスセミナー等にてご案内いたします。

- 「新入生対象入学前オリエンテーション」、「学生・ご家族との個別面談会」、「学生とクラスアドバイザーの個人面談」、「国語力向上特別講座」、「コンピュータ特別講座」、「ピアノレッスン特別講座」の開催
- 大学院心理学研究科への進学支援

4. 表彰制度

本学では、GPA制度の導入により学生一人一人のレベル向上を図ると共に、学業成績が特に優秀で、人格に優れ他者の模範となるような学生を褒賞する各表彰制度を設けています。自ら研鑽して修得する姿勢に報い、学友と共に、若き日に努力することの尊さを認め合う点からも異義あることと考えています。

表彰には、授業科目の成績の他、教育実習や保育実習など学外実習の成績、また学外活動を参考に学長賞、学部長賞、学科長顕賞が授与されます。

平成30年度 福祉学部こども学科 教育課程表

科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次								卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		必修	選択	必修	選択	必修	選択	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
教育方針		本学の教育	2 講義	15	○									2	2	2		
表現力向上分野		国語表現	4 講義演習	30	○	○								4	4	4		
		会話演習	1 演習	15		○								1	1	1		
情報教育分野		情報機器操作Ⅰ(初級レベル)	2 演習	30	○	○								2	2	2	①入学時の能力検定により履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルの履修者は、中級レベルまで計4単位以上を必修とする。	
		情報機器操作Ⅱ(中級レベル)	2 演習	30	○	○	○							2	2	2		
		情報機器操作ⅢA	2 演習	30				○	○	○	○			2	2	2		
		情報機器操作ⅢB	2 演習	30				○	○	○	○			2	2	2		
人間関係分野		生活教養	4 講義演習	30	○	○							4	4	4			
		生活と安全	2 講義	15	○									2	2	2		
教養分野		音楽演習	2 演習	30			○	○						2	2	2		
		美術演習	2 演習	30	○	○								2	2	2		
		文学演習	2 演習	30	○	○								2	2	2		
		食彩演習	1 演習	15			○							1	1	1		
		日本国憲法	2 講義	15			○							2	2	2		
		女性と保健	2 講義	15	○									2	2	2		
国際理解分野		英会話Ⅰ(ベーシックレベル)	2 演習	30	○	○								2	2	2	②入学時の能力検定により履修レベルを決定する。Ⅰの履修者はⅡまでで、1年次Ⅱの履修者は、英書リーディングまでの計4単位必修とする。	
		英会話Ⅱ(アドバンスレベル)	2 演習	30	○	○	○							2	2	2		
		英書リーディング	2 演習	30			○	○						2	2	2		
		中国語会話Ⅰ	2 演習	30				○	○					2	2	2		
		中国語会話Ⅱ	2 演習	30					○	○				2	2	2		
	国際理解論	2 講義	15	○									2	2	2			
体育分野		体育講義	1 講義	8	○									1	1	1		
		体育実技Ⅰ	1 実技	23	○	○								1	1	1	バレーボール、テニス、バドミントン、ヒップホップ&ジャズダンス、ボディ・コンディショニング	
		体育実技Ⅱ	1 実技	23		○	○							1	1	1		
小計	47 単位				13 科目	12 科目	5 科目	6 科目	3 科目	3 科目	3 科目	3 科目	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位	21 単位	26 単位

教員免許に関する区分	保育士資格に関する区分	単位数	授業形態	授業回数	履修年次								卒業		幼稚園教諭一種		保育士		備考			
					1年次		2年次		3年次		4年次		必修	選択	必修	選択	必修	選択				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
教職の意義等に関する科目	保育の本質・目的に関する科目	○	○	保育者論	2	講義	15		○								2	2	2			
		○	○	教育原理	2	講義	15		○								2	2	2			
				保育原理	2	講義	15		○								2	2	2			
				社会的養護	2	講義	15		○								2	2	2			
				社会福祉	2	講義	15	○									2	2	2			
				地域福祉論	2	講義	15					○					2	2	2			
				相談援助	1	演習	15			○							1	1	1			
				児童家庭福祉	2	講義	15	○									2	2	2			
		教育の基礎理論に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	○	○	教育行政	2	講義	15				○					2	2		2	
				○	○	教育心理学	1	演習	15			○						1	1	1		
				○	○	発達心理学	4	講義	30	○	○							4	4	4		
						臨床心理学	2	講義	15					○					2	2	2	
						心理査定法	2	演習	30					○	○				2	2	2	
						育児ストレス	2	講義	15					○					2	2	2	
						発達障害	2	講義	15						○				2	2	2	
						カウンセリング概論	2	講義	15					○					2	2	2	
						カウンセリング演習	1	演習	15						○				1	1	1	
						子どもの保健Ⅰ	4	講義	30	○	○							4	4	4		
						子どもの保健Ⅱ	1	演習	15			○	○						1	1	1	
						母子保健Ⅰ	2	講義	15					○					2	2	2	
				母子保健Ⅱ	2	講義	15						○				2	2	2			
				子どもの食と栄養	2	演習	30			○	○						2	2	2			
				食物アレルギー事例研究	1	演習	15						○				1	1	1			
				家庭支援論	2	講義	15					○					2	2	2			
				子育て支援政策	2	講義	15						○				2	2	2			
専門教育科目	保育の内容・方法に関する科目			○	○	保育・教育課程論	2	講義	15		○							2	2	2	オムニバス	
				○	○	保育内容総論	2	演習	30	○	○							2	2	2		
				○	○	保育内容指導法健康	2	演習	30					○	○			2	2	2		
		○	○	保育内容指導法人間関係	2	演習	30					○	○			2	2	2				
		○	○	保育内容指導法環境	2	演習	30					○	○			2	2	2				
		○	○	保育内容指導法言葉	2	演習	30					○	○			2	2	2				
		○	○	保育内容指導法表現Ⅰ	2	演習	30					○	○			2	2	2				
		○	○	保育内容指導法表現Ⅱ	2	演習	30					○	○			2	2	2				
		○	○	教育方法及び技術	2	演習	15					○				2	2	2	オムニバス			
		○	○	社会的養護内容	1	演習	15			○						1	1	1				
		○	○	保育相談支援	1	演習	15					○				1	1	1				
		○	○	乳児保育	2	演習	30					○	○			2	2	2				
		○	○	障害児保育	2	演習	30					○	○			2	2	2				
		○	○	幼児理解の理論と方法	2	講義	15						○			2	2		2			
		○	○	教育相談	2	講義	15						○			2	2		2 カウンセリングを含む			
		保護者対応事例研究	1	演習	15						○			1	1	1						

教員免許に関する区分	保育士資格に関する区分	授業科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次								卒業	幼稚園教諭一種		保育士		備考	
						1年次		2年次		3年次		4年次			必修	選択	必修	選択		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
専門教育科目	教職に関する科目	総合演習	2	演習	15									○	2	2	2			
		保育・幼稚園教職実践演習	2	演習	15											2	2	2		
		認定こども園基本実習	1	実習	時間割外			○	○							1	1	1		
		幼稚園教育実習	5	実習	時間割外											5	5		5	
		保育実習指導Ⅰ	2	演習	30			○	○	○	○					2	2	2	事前・事後指導1単位を含む授業回数 3年後期:7回 4年前期:10回 4年後期:3回	
		保育実習Ⅰ	4	実習	時間割外					○	○					4	4	4	保育実習指導Ⅰ授業回数 2年前期:2回 2年後期:8回 3年前期:15回 3年後期:5回	
		保育実習指導Ⅱ	1	演習	15						○	○	○			1	1	1	③、④いずれか3単位必修	
		保育実習Ⅱ	2	実習	時間割外							○			2	2	2	③、④いずれか3単位必修		
保育実習指導Ⅲ	1	演習	15						○	○	○			1	1	1	保育実習指導Ⅲ授業回数 3年前期:5回 4年前期:8回 4年後期:2回			
◆	保育実習Ⅲ	2	実習	時間割外							○			2	2	2	③、④いずれか3単位必修			
小計			98			6	6	12	10	11	14	9	7	35	63	41	57	59	39	

教員免許に関する区分	保育士資格に関する区分	授業科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次								卒業	幼稚園教諭一種		保育士		備考
						1年次		2年次		3年次		4年次			必修	選択	必修	選択	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門教育科目	教科に関する科目	ピアノ演習(初級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2	⑤この内より2単位必修	
		ピアノ演習(中級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2		
		ピアノ演習(上級レベル)	2	演習	30	○	○								2	2	2		
		器楽演習	2	演習	30	○	○								2	2	2		
		●	国語	2	講義	15					○					2	2	2	
		●	算数	2	講義	15						○				2	2	2	
		●○	音楽	2	演習	30	○	○								2	2	2	
		●○	図画工作	2	演習	30	○	○								2	2	2	
		●○	体育	2	演習	30			○	○						2	2	2	
		学童クラブ指導科目	学童保育	2	講義	15						○				2	2	2	
			学童保育実習	1	実習	時間割外						○	○			1	1	1	
			教育内容指導法 国語	2	演習	15						○				2	2	2	
			教育内容指導法 算数	2	演習	15						○				2	2	2	
			教育内容指導法 音楽	2	演習	15						○				2	2	2	
教育内容指導法 図画工作	2		演習	15						○				2	2	2			
教育内容指導法 体育	2		演習	15						○				2	2	2			
本学独自の科目	園芸	2	演習	30						○	○			2	2	2			
	創作ミュージカル	2	演習	30						○	○	2		2	2	2			

教員免許に関する区分	保育士資格に関する区分	授業科目	単位数	授業形態	授業回数	履修年次								卒業	幼稚園教諭一種		保育士		備考
						1年次		2年次		3年次		4年次			必修	選択	必修	選択	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門教育科目	本学独自の科目	バリダンスレッズとバリ島幼稚園交流	2	演習	時間割外	○	○	○	○						2	2	2		
		特別研究Ⅰ	1	演習	15							○			1	1	1		
		特別研究Ⅱ	1	演習	15							○			1	1	1		
		ゼミナール	4	演習	60					○	○	○	○	4	4	4	2年間継続履修(単位認定は4年次)		
小計			43			7	7	2	2	2	8	8	14	29	14	29	10	33	
総合計			188			26	25	19	18	16	19	20	70	118	76	112	90	98	

最低必要単位数

授業科目	卒業		幼稚園教諭一種		保育士	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択
教養教育科目	教育方針	2単位	7単位以上	2単位	7単位以上	2単位
	表現力向上分野	5単位		5単位		5単位
	情報教育分野	2単位		2単位		2単位
	人間関係分野	4単位		4単位		4単位
	教養分野	—		2単位		—
	国際理解分野	6単位		4単位		6単位
体育分野	2単位	2単位	2単位			
小計	21単位	7単位以上	21単位	7単位以上	21単位	7単位以上
合計	28単位以上		28単位以上		28単位以上	
専門教育科目	教職	35単位	47単位以上	41単位 ①教職に関する科目○印40単位 ②教科又は教職に関する科目1単位	41単位以上	71単位 (◎印61単位+◇印より6単位+◆印より3単位+1単位)
	教科	8単位		10単位(●印)		21単位以上
	学童クラブ指導科目	—		—		—
	本学独自の科目	6単位		4単位		4単位
小計	49単位	47単位以上	55単位	41単位以上	75単位	21単位以上
合計	96単位以上		96単位以上		96単位以上	
総合計	124単位以上		124単位以上		124単位以上	

■ 福祉学部こども学科カリキュラムツリー

福祉学部こども学科の教育目標		教育・福祉両面に渡る発達支援、子育て支援を担う専門職を目指し、保育士として指導的役割を担うことのできる人材を養成					乳幼児期を中心とした保育および幼児教育に関する教育研究を行い、将来的に保育教諭、幼稚園教諭ならびに					
項目	[1] 「幼稚園教諭一種免許状」と「保育士資格」の両方を在学中に取得					[2] 保育者として望まれる諸資質、すなわち、明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性などを修得		[3] 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得				
科目名	専門教育科目					教養教育科目		専門教育科目(実習)				
幼稚園教諭一種	教職の意義／教育の基礎理論		教育課程および指導法／生徒指導・教育相談及び進路指導等		教職実践	教科に関する科目	学童クラブ指導科目	本学独自の科目	※上記諸資質(明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性等)は教養教育科目全般を通して学ぶものである		教育実習(事前・事後指導を含む)	教科又は教職に関する科目
保育士	保育の本質・目的	保育の対象の理解	保育の内容・方法		総合演習	保育の表現技術			事前・事後指導			保育実習
4年							学童保育					
							学童保育実習					
		発達障害					教育内容指導法 国語	園芸				
		母子保健I					教育内容指導法 算数	創作ミュージカル				
		母子保健II					教育内容指導法 音楽	特別研究I	情報機器操作ⅢA(3・4年共通科目)			
		食物アレルギー事例研究					教育内容指導法 図画工作	特別研究II	情報機器操作ⅢB(3・4年共通科目)	保育実習指導Ⅱ(3～4年継続科目)		保育実習Ⅱ
	地域福祉論	子育て支援政策	保護者対応事例研究	保育・幼稚園教諭実践演習		教育内容指導法 体育	ゼミナール(3～4年継続科目)	中国語会話Ⅱ	保育実習指導Ⅲ(3～4年継続科目)	幼稚園教育実習(3～4年継続科目)	保育実習Ⅲ	
3年			保育内容指導法 健康									
		教育行政	保育内容指導法 人間関係									
		臨床心理学	保育内容指導法 表現Ⅱ									
		心理査定法	教育方法及び技術									
		育児ストレス	障害児保育						情報機器操作ⅢA(3・4年共通科目)	保育実習指導Ⅰ(2～3年継続科目)		
		カウンセリング概論	幼児理解の理論と方法			国語			情報機器操作ⅢB(3・4年共通科目)	保育実習指導Ⅱ(3～4年継続科目)		
	カウンセリング演習	教育相談			算数		ゼミナール(3～4年継続科目)	中国語会話Ⅰ	保育実習指導Ⅲ(3～4年継続科目)	幼稚園教育実習(3～4年継続科目)	保育実習Ⅰ	
2年			保育内容指導法 環境					会話演習				
			保育内容指導法 言葉					情報機器操作Ⅱ(中級レベル)(1・2年共通科目)				
		教育心理学	保育内容指導法 表現Ⅰ					食彩演習				
		子どもの保険Ⅱ	社会的養護内容					日本国憲法				
		教育原理	子どもの食と栄養	保育相談支援				英会話Ⅱ(アドバンスレベル)(1・2年共通科目)				
		相談援助	家庭支援論	乳児保育		体育		バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流(1・2年生共通科目)	体育実技Ⅱ	保育実習指導Ⅰ(2～3年継続科目)		認定こども園基本実習
1年								本学の教育				
								国語表現	文学演習			
						ピアノ演習(初級レベル)		情報機器操作Ⅰ(初級レベル)	女性と保健			
		保育者論				ピアノ演習(中級レベル)		情報機器操作Ⅱ(中級レベル)(1・2年共通科目)	英会話Ⅰ(ベーシックレベル)			
		保育原理				ピアノ演習(上級レベル)		生活教養	英会話Ⅱ(アドバンスレベル)(1・2年共通科目)			
		社会的養護				器楽演習		生活と安全	国際理解論			
	社会福祉	発達心理学	保育・教育課程論		音楽			音楽演習	体育講義			
	児童家庭福祉	子どもの保健Ⅰ	保育内容総論		図画工作		バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流(1・2年生共通科目)	美術演習	体育実技Ⅰ			